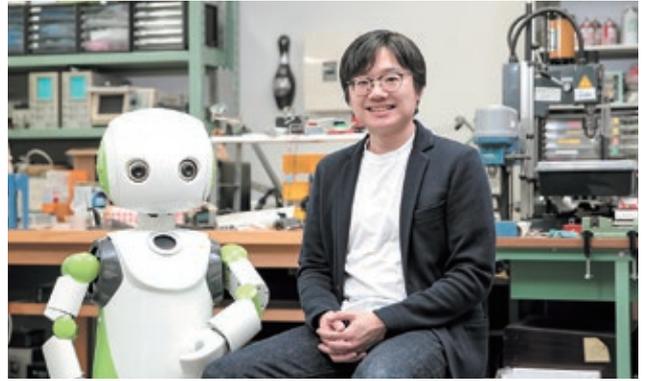


# 大学院からの 人材輩出

## 大学教員の道へと進んだ 修了生たち



未来大の大学院で学んだ人たちが、日本各地の大学で教員となって活躍しています。また留学生が、帰国後に母国で教員となる例も出ています。未来大での学びをさらに深めて大学教員になった修了生を代表して、坂本大介さんのコメントを紹介します。

### 人生を大きく変えた未来大の学び

放送局に所属していた高校時代、メディアの仕事に就きたいと思っていたので、北海道大学の文系学部が第一志望でした。ところが受験に失敗し、滑り止めで受験していた未来大に一期生として進学。浪人の道を選ばなかったのは、未来大には既存の大学とは違う新しい学びが待っていることを直感したからです。1期生は、難関国立大を蹴ってまで未来大に来た人など、個性的なメンバーばかりで、毎日が刺激的でした。

### 生まれたばかりの大学で過ごした挑戦的な毎日

未来大には、何かに挑戦したいという学生の意思を尊重する環境があり、サポートしてくれる先生が多かったため、在学中にいろいろなコンペやコンテストにも挑戦しました。受賞や採択に至ったものも多く、私のキャリアの1つになった「未踏ソフトウェア創造事業」(現IPA「未踏IT人材発掘・育成事業」、p.62で紹介)も、先生たちから紹介していただいたものでした。

### 未来大の学びのレベルの高さを実感

大学院に進む頃には、将来は研究者になることを決意していました。大学院博士後期課程を修了後、東京大学大学院で助教と特任講師を務め、その後北海道大学に准教授として赴任し、教育と研究にあたっています。国内や海外の有名大学を見てきた中で、あらためて感じるのは未来大の学びの質の高さ。トップレベルの大学に比肩する内容の教育を、少人数で受けることができるのは大きなメリットです。本当に大事なものは、どこで学ぶかではなく、どう学ぶかです。

IT化社会と言われますが、現在の日本でパソコンやスマホを十分に使いこなしている人は全体の5%程度というのが現状です。私のミッションは、より使いやすい技術を開発し、より多くの人々が情報技術の恩恵を受けられる社会を実現すること。そして、いつか未来大に戻って後輩たちを育ててみたいということも、将来の夢のひとつです。



### 坂本 大介さん プロフィール

北海道大学大学院情報科学研究院 情報理工学部門複合情報工学分野 ヒューマンコンピュータインタラクション研究室 准教授。2004年公立はこだて未来大学情報アーキテクチャ学科卒業、2008年同大学院博士後期課程修了。博士(システム情報科学)。東京大学大学院助教、同特任講師などを経て2017年4月より現職。国内外の学会等で最優秀論文賞、最優秀デモンストレーション賞を受賞。

### COLUMN

### 教育と研究に貢献できる人材の育成

未来大大学院出身の人材の中から、大学のような高等教育機関の教員になった人々も数多く出てきました。現在、未来大教員の寺沢憲吾准教授は、他大学で学部・博士前期課程を修了した後、本学の博士後期課程に進み、未来大初の博士号を授与されました。他にも、未来大を卒業後、他大学の大学院に進んで研究者や教員になった人もいます。未来大は、今後とも、教育と研究に貢献できる人材の育成に励みます。